

1 2 1 行間を読む

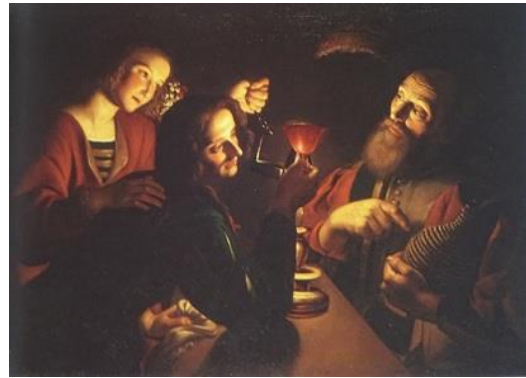
《酒場の情景》 ジャコモ・マッサ

2024

真鍋友範



《聖マタイの召命》カラヴァッジョ
1599—1600



《酒場の》ジャコモ・マッサ
1620-1640

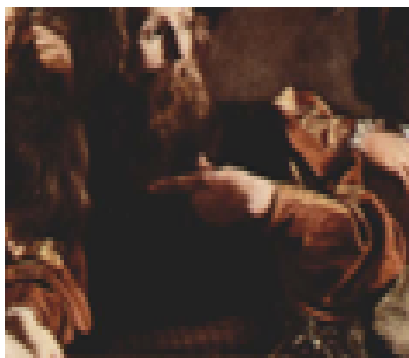
1 バロック絵画の動画表現から

イタリア・バロック絵画の出発は、カラヴァッジョにあることは、もはや周知の事実ではあるが、ストーリーの解析において、かなり難しい判断が必要とされる場面に、しばしば出会うのだ。

この最たる例は、カラヴァッジョ作《聖マタイの召命》における、髭男の最初の質問動作だろう。

この場面の意味は、『お探しの方は、私ですか、それとも隣の眼鏡の人ですか』であるが、この動作を読み解くに当たり、まず『お探しの方は、私ですか』の意味での、【親指を胸に当てる動作】をイメージする必要があるが、直接には描かれていない動作なのだ。連続動作の後半部分しか描かれていないのだ。

何故なら、カラヴァッジョの意図した【コマ送り動画表現】は、当時としては革新的な表現であったからだ。



* 連続動作の後半動作が描かれているが、直前の前半動作を同時に理解する必要がある。

では、《酒場の情景》では、カラヴァッジョの開発した【コマ送り動画】は、どのように応用されているかをみよう。

2 絵画に、おける行間を読む

行間を読まずに、ストーリーを読むと、以下になる。

【酒場の店主は、若い夫婦の夫が酒の鑑定に集中している間に、妻の方を見ながら、酒瓶を指差した。そうすると、妻はロザリオを持った手を上げながら、親指を人指と中指の間に移動して、侮辱のポーズを酒屋の亭主に返した】、となる。

しかし、これではストーリーとして成立しない。

単に、酒瓶を指差して、新たな酒を提示して、どうして侮辱のポーズにつながるのかが、説明できない。

文章に例えれば、行間を読む必要が生まれる。

ストーリーを再構築すると以下になる。

- 1) 若い夫婦が酒場を訪れる。
- 2) 若い夫は、勧められた酒の鑑定を熱心に行っている。
- 3) 一方で、酒場の主人は別の酒を若い妻に見せる。
- 4) 描かれていないが、ここで酒場の主人は若い妻に向かって、卑猥な表情を浮かべながら、右手の親指を自分の胸に、続いて人差し指を若い妻に向けながら、最後に酒瓶を指差す。
- 5) 若い妻は、ロザリオを持った右手を上げ、親指を人指と中指の間に移動して、侮辱のポーズを酒屋の亭主に返した。

つまり、酒瓶を指差す直前に、《聖マタイの召命》における、髭男の左手の二段階質問ポーズと同じ、【二方向の対象を指し示す手の動作】を挟むことで、教訓画のストーリーとして成立するのだ。

この意味するところは、紛れもなく、画家ジャコモ・マッサから画家カラヴァッジョへのリスペクト、つまりオマージュの意味が内包された表現なのだ。

3 結論

判明する事実として、バロック絵画に於いて、【いわば、文章の行間のような、この隠された身体ポーズを見出し、ストーリーを正しく読み込まなければ、その本質的な深い内容は決して理解できない、ということになる。】

カラヴァッジョの開発したコマ送りの動画表現は、周囲の画家に衝撃的な体験を与えていたことになる。 ジャコモ・マッサは、カラヴァッジョの開発した【コマ送り動画表現】を自己の作品で、実践していたのだ。